

鳥屋野運動公園野球場再整備基本計画 (案)

令和 8 年●月

新潟市

目 次

第 1 章 基本計画の策定にあたって	1
1. 1. 策定の主旨	1
1. 2. 鳥屋野運動公園野球場の現状	1
1. 2. 1. 鳥屋野運動公園の概要	2
1. 2. 2. 鳥屋野運動公園野球場の概要	3
1. 2. 3. 鳥屋野運動公園野球場の利用状況	3
1. 3. 野球競技の動向	4
1. 4. 野球場の集約化や多機能化等	6
第 2 章 鳥屋野運動公園野球場再整備基本計画	7
2. 1. 与条件の整理	7
2. 2. 野球関係者及び地域住民の意見	8
2. 2. 1. 野球関係者の意見	8
2. 2. 2. 地域住民の意見	9
2. 3. 先進事例	10
2. 4. 野球場の整備方針	12
2. 4. 1. 整備コンセプト	12
2. 4. 2. 整備方針	12
2. 5. 野球場の基本機能	13
2. 6. 野球場の利用想定	14
2. 7. 新野球場の整備イメージ	16
第 3 章 今後の進め方	17
3. 1. 今後の検討事項	17
3. 1. 1. 周辺環境整備	17
3. 1. 2. 渋滞対策	18
3. 2. 今後のスケジュール（予定）	20

※ 本計画は、社会経済情勢の変化や周辺環境への影響を踏まえ、今後変更となる場合があります。

第1章 基本計画の策定にあたって

1.1. 策定の主旨

本計画は、現在地で建て替えることを決定した鳥屋野運動公園野球場の整備コンセプトや整備方針、基本機能などについてとりまとめたものです。

1.2. 鳥屋野運動公園野球場の現状

鳥屋野運動公園野球場は、新潟国体に合わせて昭和 38 年に開場し、学童野球から社会人野球まで幅広く利用されてきました。

しかし、施設の老朽化が進んでいたため、今後のあり方について市及び有識者会議で議論する中、令和 6 年能登半島地震で被害を受けて使用できなくなりました。

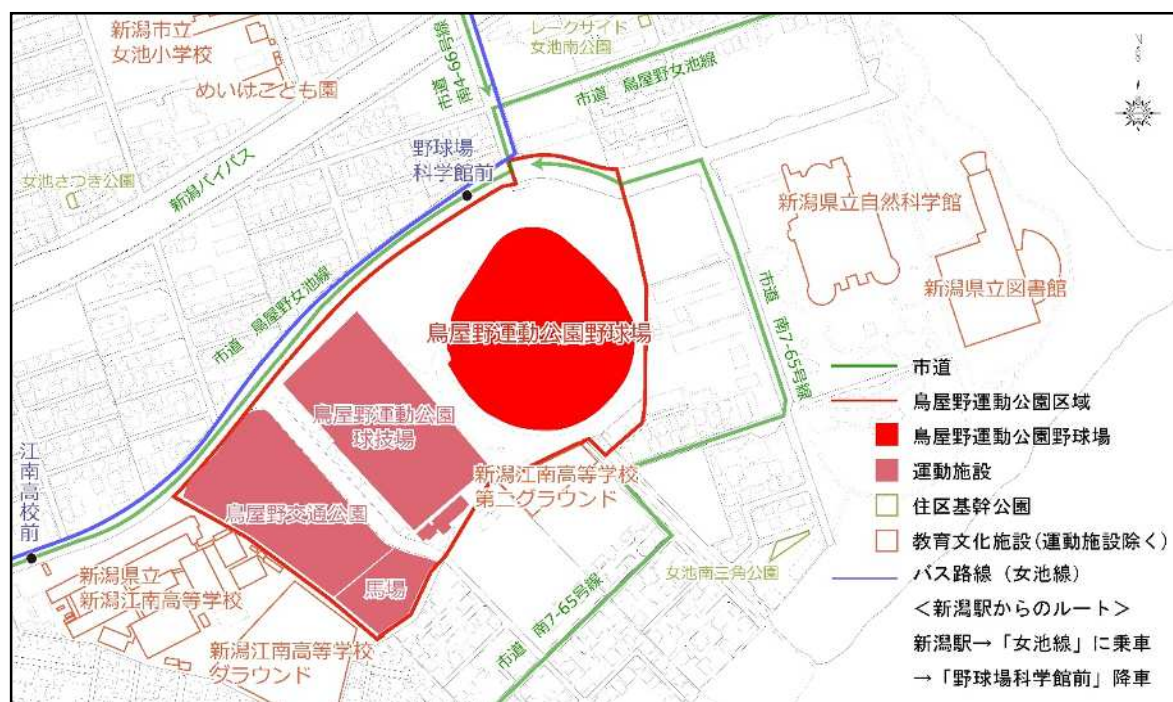
市内で硬式野球の公式戦が開催可能な野球場は限られていることや、全国規模の大会誘致の観点などからも、この様な機能を持つ野球場は市内中心部に引き続き必要であることから、被災後も検討を重ね、現在地で新しい野球場に建て替えることを決定しました。

1.2.1. 鳥屋野運動公園の概要

鳥屋野運動公園は、市内中心部に位置し、野球場のほか球技場や馬場があり、「鳥屋野交通公園」が隣接しています。周辺には「新潟県立自然科学館」や「新潟県立図書館」、「新潟県立新潟江南高等学校」など教育文化施設が多く位置しています。交通アクセスは、路線バスの場合新潟交通女池線「野球場科学館前」から徒歩約1分、車の場合は新潟バイパス「桜木インターチェンジ」を降りて約3分となっています。

表 1.2.1 公園概要

項目	概要
所在地	新潟市中央区女池南3丁目
都市計画（計画日）	都市公園（昭和37年7月25日）
都市公園の種別	運動公園
都市計画面積	9.5ha
新潟市地域防災計画における位置づけ	広域避難場所



※「鳥屋野運動公園区域」は都市計画上の公園区域を示しています。

図 1.2.1 本野球場周辺の状況

1.2.2. 鳥屋野運動公園野球場の概要

表 1.2.2 施設概要

項目	概要
開場年月	昭和 38 年 8 月
指定管理者	公益財団法人 新潟市開発公社(令和 6 年度～令和 11 年度)
建築構造	鉄筋コンクリート 3 階建て
グラウンド	面積：12,547m ² 両翼：97.6m、中堅：120m 内野：黒土、外野：天然芝
観客収容人数	14,000 人(内野：9,860 人、外野：4,320 人)
駐車場	面積：5,953 m ² 、駐車可能台数：650 台（交通公園と共用）
利用できる種目	硬式野球、軟式野球
新潟市地域防災計画における位置づけ	備蓄拠点、緊急ヘリポート適地

1.2.3. 鳥屋野運動公園野球場の利用状況

本市の硬式野球として利用可能な野球場の利用者数は、令和 2 年度から令和 4 年度は、新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」）の流行により減少しています。

コロナの流行が収束した後、利用者数はコロナ前の水準には至らないものの回復傾向にあります。令和 5 年度では、本野球場を約 2 万人が利用しており、本市内で硬式野球として利用可能な野球場の中で最も利用者数が多くなっています。

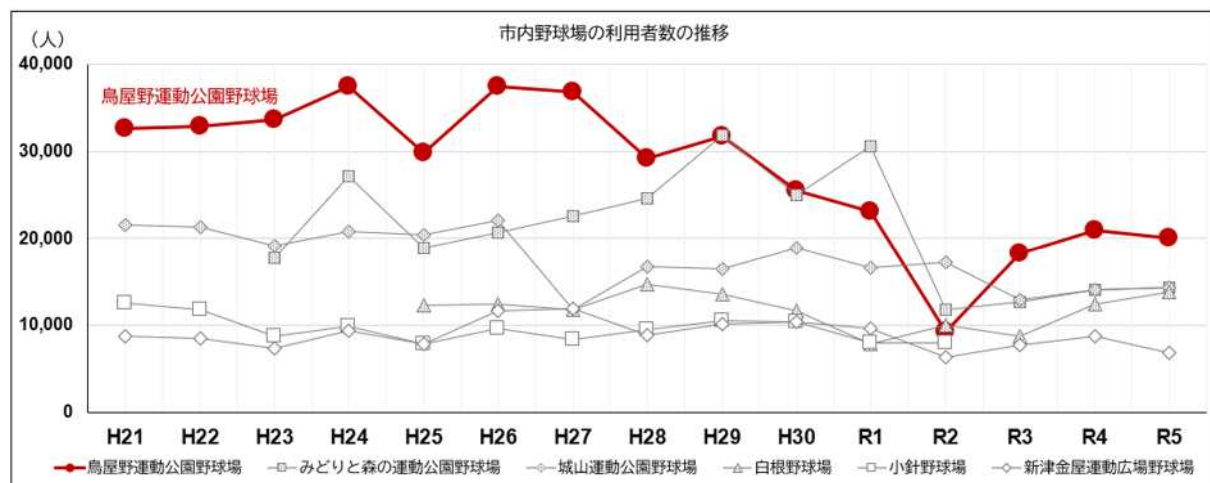


図 1.2.2 利用者数の推移

1.3. 野球競技の動向

(1) 県内の大会開催状況

1) 高校野球

新潟県高等学校野球連盟が主催する春季、夏季および秋季の県大会において、決勝はHARD OFF ECO スタジアム新潟（以下「エコスタ」）を中心に開催されており、鳥屋野運動公園野球場では4回戦まで行われています。

入場者数が最も多くなる夏季大会において、鳥屋野運動公園野球場が担っている4回戦までの入場者数は、減少傾向にある中でもコロナ前の水準に回復しつつあり、最大値はコロナ前後で3千人程度となっています。

表 1.3.1 高校野球の各大会における球場別試合数（R4～R5年度平均）

野球場名	所在地	開催試合	春季	夏季	秋季	計
エコスタ	新潟市	～決勝 (春季除く)	0.0	16.0	11.5	27.5
鳥屋野運動公園野球場	新潟市	～4回戦	15.5	5.0	4.5	25.0
五十公野公園野球場	新発田市	～4回戦	16.5	16.0	17.5	50.0
悠久山野球場	長岡市	～決勝 (春季のみ)	18.0	14.0	15.0	47.0
三条市民球場 (三条パール金属スタジアム)	三条市	～4回戦	2.0	0.0	10.0	12.0
佐藤池野球場	柏崎市	～決勝 (秋季のみ)	18.5	17.5	6.0	42.0
計			70.5	68.5	64.5	203.5

(出典：新潟県高等学校野球連盟 HP より新潟市作成)

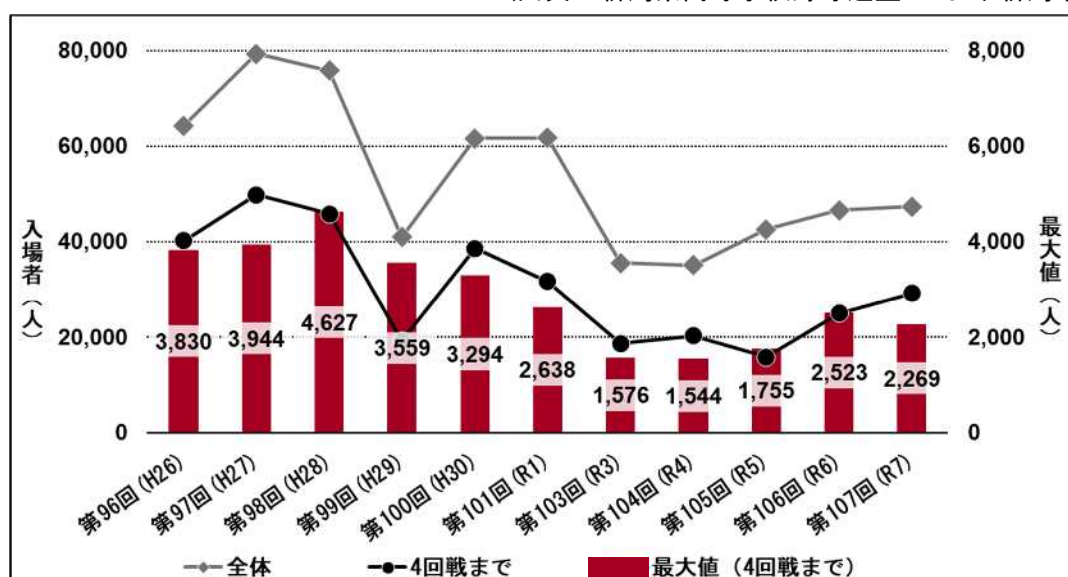


図 1.3.1 高校野球選手権新潟大会（夏季大会）入場者数の推移

(出典：新潟県高等学校野球連盟提供資料より新潟市作成)

2) 大学野球

本県の新潟医療福祉大学と新潟大学は、これまで関甲新学生野球連盟に加盟し、春季・秋季のリーグ戦に参加していました。県内では、大学のほかエコスタで試合が行われていました。令和8年1月からは、南東北大学野球連盟に加盟して活動が行われます。

3) 社会人野球

社会人野球日本選手権最終予選北信越地区大会や JABA 選抜新潟大会は、エコスタやみどり森の運動公園野球場で行われ、JABA 北信越クラブカップは、鳥屋野運動公園野球場で行われています。

4) プロ野球

NPB 1 軍の公式戦は、エコスタで年 1 回程度行われており、オイシックス新潟アルビレックス・ベースボール・クラブが所属する NPB 2 軍の公式戦は、エコスタやみどり森の運動公園野球場などで行われています。

(2) 県内の野球場

硬式野球の公式戦が行われる県内の主要な野球場は、公認野球規則で望ましいとされる基準（両翼：97.53m 以上、中堅 121.92m 以上）を満たしており、本市の野球場に比して多くの観客を収容することができ（鳥屋野運動公園野球場を除く）、駐車台数も多く確保されています。

また、本市の野球場で、硬式野球ができる野球場は 6 施設あり、このうち鳥屋野運動公園野球場、みどり森の運動公園野球場、城山運動公園野球場の 3 施設を公式戦が開催可能な野球場に位置づけていますが、公認野球規則の基準を満たす野球場は、みどり森の運動公園野球場のみです。

表 1.3.2 主な野球場の基礎データ

野球場名	所在地	所有	開場年	観客収容人数 (人)			グラウンド 規格 (m)		グラウンド舗装		屋根	照明 設備	スコア ボード	駐車場
				内野	外野		両翼	中堅	内野	外野				
エコスタ	新潟市	新潟県	平成21年	30,000	20,000	10,000	100	122	人工芝	人工芝	内野一部	あり	LED式	3,393台 (園内共有)
五十公野公園野球場	新発田市	新発田市	平成4年	11,000	5,500	5,500	98	122	混合土	天然芝	なし	あり	磁気式	1,300台 (園内共有)
悠久山野球場	長岡市	長岡市	昭和42年	8,218	5,718	2,500	98	122	土	天然芝	なし	なし	磁気式	810台 (園内共有)
三条市民球場 (三条パール金属スタジアム)	三条市	三条市	平成7年	14,800	7,200	7,600	99	122	混合土	天然芝	内野一部	あり	磁気式	900台 (園内共有)
佐藤池野球場	柏崎市	柏崎市	昭和61年	11,400	6,400	5,000	98	122	土	天然芝	内野一部	なし	LED式	919台 (園内共有)
鳥屋野運動公園野球場	新潟市	新潟市	昭和38年	14,000	9,680	4,320	97.6	120	土	天然芝	内野一部	なし	LED式	650台 (園内共有)
みどり森の運動公園野球場	新潟市	新潟市	平成23年	3,000	3,000	0	98	122	土	天然芝	なし	あり	LED式	641台 (園内共有)
城山運動公園野球場	新潟市	新潟市	昭和55年	5,500	5,500	0	92	120	土	天然芝	なし	あり	LED式	約600台 (園内共有)
白根野球場	新潟市	新潟市	平成25年	1,600	1,600	0	98	122	土	天然芝	なし	あり	手動式	200台
新津金屋運動広場野球場	新潟市	新潟市	平成5年	1,100	1,100	0	97.6	122	土	天然芝	なし	あり	磁気式	140台 (園内共有)

1.4. 野球場の集約化や多機能化等

本市は、人口減少、厳しい財政状況、膨大な施設更新費用などの課題に対応するため、「財産経営推進計画」において公共施設の総量削減やサービス機能の維持を方針として、公共施設の最適化や長寿命化等に向けて、「公共施設再編案」や「公共施設の種類ごとの配置方針」を定めています。

本市のスポーツ施設の人口一人あたりの施設数は、政令指定都市最多であり、野球場も同様に政令指定都市最多となっています。鳥屋野運動公園野球場は、市内で数少ない硬式野球の公式戦が開催可能な野球場であり、「公共施設再編案」では、存続する方針としています。このように存続する野球場の建て替えや改修等に当たっては、他野球場との集約化や多機能化、他施設との複合化の視点を持って進めていく必要があります。

第2章 鳥屋野運動公園野球場再整備基本計画

2.1. 与条件の整理

下記に示す与条件に即して、基本計画を策定します。

表 2.1.1 与条件の概要その1

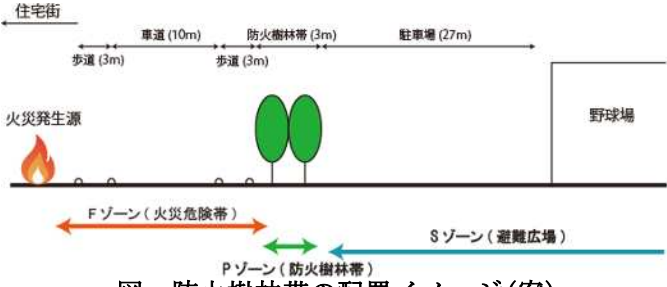
項目	順守	配慮	概要
新潟市総合計画2030	■		○「分野2 文化・スポーツ」、「施策1 生涯スポーツ社会の実現」の「②スポーツを支える環境づくり」
新潟市スポーツ推進計画	■		○「基本方針1 生涯スポーツ社会の実現」、「(2)スポーツを支える環境づくり」の「③スポーツ施設の整備・改修、施設利用環境の充実」
都市公園法	■		○本公園における運動施設の敷地面積の総計は、公園の敷地面積の50%以内
建築基準法	■		○本野球場は特殊建築物 ○不特定多数の人が集まるため、以下項目等に留意 ・定期報告 ・耐火建築物等 ・階段・出入口・避難施設 ・排煙設備 ・敷地内の避難通路
新潟市みどりの基本計画	■		○「方針4 潤いとやすらぎをもたらし、生活を豊かにするレクリエーションの場を創出します」＝「方策⑤身近な公園・緑地の確保」、「⑥特徴のある公園・緑地の創出」
新潟市公共施設緑化ガイドライン		■	「第2編第2章 緑化の基準」＝「1 対象とする公共施設と緑化基準」 ○運動公園の緑化率は30%
新潟市地域防災計画	■		「第2部第1章第7節 公園緑地災害予防計画」 ○耐火性・防火性に優れた常緑樹の植栽<不燃化促進>、適正な樹木の維持管理による二次被害の防止<倒木防止>災害に強い公園緑地の整備 「第2部 第1章 第17節 避難計画」 ○本公園は広域避難場所に指定され（地震、大規模火災時に避難可能）、野球場は備蓄拠点、緊急ヘリポート適地に指定
新潟市総合ハザードマップ(鳥屋野中学校区)		■	○洪水：最大で0.5m～3.0m浸水 (阿賀野川、信濃川、小阿賀野川・能代川、栗ノ木川・鳥屋野潟による浸水を想定) ○津波浸水：最大で0.3m～0.5m未満浸水 (「F30(秋田・山形沖)」、「F34(県北・山形沖)」、「F35(佐渡北)」、「F38(越佐海峡)」、「F42(佐渡西方・能登半島北東沖)」、「長岡平野西縁断層帯」)による津波を想定 ○内水氾濫：最大で10cm～30cm浸水 (洪水が始まる前までを想定)
防災公園技術ハンドブック/(公財)都市緑化機構		■	○災害発生時の一時的な避難場所の機能を担うため、防災植栽帯の配置に配慮  住宅街 車道(10m) 歩道(3m) 防火樹林帯(3m) 歩道(3m) 駐車場(27m) 火災発生源 Fゾーン(火災危険帯) Pゾーン(防火樹林帯) Sゾーン(避難広場) 野球場 図 防火樹林帯の配置イメージ(案)

表 2.1.2 与条件の概要その2

項目	順守	配慮	概要
光害対策ガイドライン		■	○住民への影響が生じることがないように配慮
新潟市建設作業に関する騒音・振動の規制について	■		○基準値：騒音 85 デシベル 振動 75 デシベル ○作業不可時間帯：午後 7 時から翌日の午前 7 時まで ○一日の作業時間：10 時間まで ○連続作業日数：連続 6 日 ○作業日：日曜日その他の休日を除く日

2.2. 野球関係者及び地域住民の意見

2.2.1. 野球関係者の意見

野球競技に関わる団体を対象として、現野球場の課題や新野球場に求める機能等を把握し、新野球場のコンセプトや機能の参考とするため、令和 7 年 4 月にアンケート調査を実施しました。回答があった 13 団体のうち半数以上の意見があったものについて以下に示します。

【現野球場の課題】

①大会時の選手の動線の確保

- 大会時は選手のバス利用が多いため、バス停までの動線の確保
- 選手と観戦者の動線が重なっており、事故防止のため、選手と観戦者との動線を分離

②大会運営しやすい諸室の配置（選手控室等の諸室、快適な空調設備）

- 暑さ対策として空調設備を配置
- 十分な規模の選手控室や諸室の配置

【新野球場が担うべき役割】

- 公式戦を中心とした競技志向の野球場
- 幅広い世代や多様なプレイヤーが利用しやすい野球場
- 防災機能を備えた野球場

【新野球場に求める設備】

- 観客の収容人数：5 千人以上
- グラウンド舗装：内野・外野ともに人工芝
- 競技者向けにあると良い設備：ナイター照明
- 観客向けにあると良い設備：多様な観客席
- 地域住民向けにあると良い設備：屋内練習場

2.2.2. 地域住民の意見

現野球場の近隣住民及びプレイヤー等の意見を把握し、新野球場のコンセプトや機能の参考とするため、令和7年8月～10月に計3回、ワークショップを実施しました。

参加者の意見について以下に示します。

【建て替えへの不安】

- 周辺道路の渋滞、駐車場不足
- 周辺住宅地へのナイター照明の光害や応援の騒音

【新野球場の機能】

①競技者向け

- 降雨後も比較的早く利用できる速乾性のあるグラウンド
- 雨天時もスポーツの練習等ができる屋内練習室
- 選手のクーリングタイムや観客の快適性に配慮した空調機能
- 選手が準備運動に使える広場

②観客者向け

- 観客席を日差し等から守る屋根
- 送迎バス用乗降スペースの整備による自動車台数の抑制
- 駐車場の出入口や周辺道路の改良による交通渋滞の緩和
- 防球ネット等の対策を行い、球場沿いにも駐車場を設置
- 野球場の配置を工夫することで駐車場用スペースを確保

③市民向け

- 市民が広場として利用できるような芝生スペース
- 野球場の外周や公園の外周を回るランニングコース
- 地域の人などが気軽に立ち寄りたと思える飲食や買い物ができるスペース
- 誰でも利用できるトイレやベンチの設置
- こどもや親子が自由にキャッチボールできるスペース
- こども用遊具の設置など、周辺施設（交通公園等）と連携した一体的な整備

④地域防災

- 食料や仮設ベッドなどの備蓄がある避難所機能や臨時のヘリポートの役割
- 災害時や地域の会議にも使える多目的室
- 災害時にグラウンドや駐車場で仮設住宅が設置できるような設計
- 雨水対策のための貯水が出来る機能の導入

⑤その他

- ドーム球場や将来ドームに改修できる施工

【新野球場の利用方法】

- 周辺施設の駐車場を相互利用
- 他競技や周辺の学校の運動会や地域のイベント等での活用
- 近隣商業施設や飲食施設と連携したキャンペーン等による利用の促進
- コンサート会場としての利用
- 周辺の地域団体等が優先的に野球場を利用できる制度の導入

2.3. 先進事例

本野球場建て替えの参考とするため、近年整備された硬式野球の公式戦が開催できる本市及び県外で建設された野球場の概要について以下に示します。

表 2.3.1 各野球場の概要(1/2)

		鳥屋野運動公園野球場	みどりと森の運動公園	くら寿司スタジアム堺 (大阪府)
イメージ写真				 出典：堺市パンフレット
供用開始年		1963 年（昭和 38 年）	2011 年（平成 23 年）	2020 年（令和 2 年）
整備手法		公設民営	公設民営	公設民営
利用できる種目		硬式・軟式野球	硬式・軟式野球	硬式・軟式野球/ ソフトボール
両翼		97.6m	98m	100m
中堅		120m	122m	122m
舗装	内野	土	土	土
	外野	天然芝	天然芝	天然芝
観客席	内野	9,680 人	3,000 人	3,000 人（一部屋根付）
	外野	4,320 人	—	2,000 人
照明設備		—	6 基	6 基
屋内練習場		—	—	1・3 塁側
ブルペン		1・3 塁側（屋外）	1・3 塁側（屋外） 1 塁側（屋内）	1・3 塁側（屋内）
更衣室・シャワー室		1・3 塁側に各 2 部屋	1・3 塁側に各 2 部屋	1・3 塁側に各 2 部屋
屋内施設		事務室、審判員室、医務室、来賓室、本部室、記録室、放送室、記者室、野球連盟事務局	事務室、審判員室、医務室、審判控室、来賓室、本部室、記録室、放送室、記者室、カメラマン室	事務室、審判員室、医務室、審判控室、来賓室、本部室、記録室、放送室、記者室、カメラマン室
会議室		1 部屋	1 部屋	1 部屋（半面利用可）
多目的室		—	—	—
野球以外の機能		—	・運動公園内の他施設と連携してサッカー、テニス等の利用実績あり	・グラウンドは、イベントスペースとしての利用実績あり（野球測定会等） ・屋内練習場は、ダンスの練習場所として利用可能

表 2.3.2 各野球場の概要 (2/2)

	大田スタジアム (東京都)	近江八幡運動公園野球場 (滋賀県)	いわて盛岡ボール パーク (岩手県)
イメージ 写真	 出典：大田区 HP	 出典：近江八幡市 HP	 出典：岩手県 HP
供用開始年	2019 年 (令和元年)	2025 年 (令和 7 年)	2023 年 (令和 5 年)
整備手法	公設民営	公設公営	民設民営
利用できる 種目	硬式・軟式野球/ ソフトボール	硬式・軟式野球/ ソフトボール	硬式・軟式野球/ ソフトボール
両翼	97.6m	100m	100m
中堅	122m	122m	122m
舗装	内野	人工芝	人工芝
	外野	人工芝	人工芝
観客 席	内野	3,223 人 (一部屋根付)	1,500 人 (一部屋根付)
	外野	—	8,000 人
照明設備	6 基	6 基	6 基
屋内練習場	—	—	野球場に隣接して別途建設
ブルペン	1・3 塁側 (屋内)	1・3 塁側 (屋外)	1・3 塁側 (屋内)
更衣室・ シャワー室	1・3 塁側に各 1 部屋	1・3 塁側に各 1 部屋 (シャワーは 1・3 塁側合 わせて 1 部屋のみ)	1・3 塁側に各 2 部屋
屋内施設	事務室、審判員室、医務室、 屋内観覧室、本部室、記録 室、記者室、整備員室、応 接室	事務室、審判員室、医務室、 屋内観覧室兼記者室、記録 放送室、役員室、ラウンジ	事務室、大会運営関係者室 ×4 (本部室・審判控室等 に使用可)、放送記録室、 審判更衣室、医務室
会議室	2 部屋 (大会議設×1、小 会議室×1)	—	2 部屋
多目的室	—	1 部屋	3 部屋
野球以外の 機能	・グラウンドは、一般者向 けの運動広場としての 利用実績あり	・グラウンドは、イベント スペースとしての利用 実績あり	・屋内練習場は、フィット ネススクール等の開催 実績あり

先進事例との比較に基づき、本野球場の機能面の課題等について以下に示します。

- ① 公認野球規則で望ましいとされる基準（両翼：97.53m以上、中堅：121.92m以上）への適合
- ② 夜間利用のための照明設備の検討
- ③ 天候に影響されず練習が可能な屋内練習場の検討
- ④ 多目的な利活用を想定した機能の検討

2.4. 野球場の整備方針

本野球場は、これまで担ってきた硬式野球の公式戦が開催可能な機能を継承しつつ、エコスタと役割を区別し、現代に必要な機能を備えた施設にしていきます。

前項までの整理を踏まえ、野球場の整備コンセプト及び整備方針を定め、想定する基本的な機能を整理しました。

2.4.1. 整備コンセプト

プレイヤーや市民に親しまれる野球場

2.4.2. 整備方針

- 1. 硬式・軟式野球の公式戦が開催できる野球場
- 2. 多目的な利活用が可能な野球場
- 3. 安心・安全な野球場

2.5. 野球場の基本機能

本野球場が想定する基本的な機能について以下に示します。今後策定する詳細計画で具体化していきます。

表 2.5.1 基本的な機能の概要その1（規則等の規定があるもの）

項目	概要
グラウンド	両翼：98m、中堅：122m
内野	1 辺 27.431m
勾配	グラウンド：0.4～0.8%程度、サークルエッジ：高さ+95 mm
方位	本塁から二塁の方位は、現野球場の方位を基本に検討
舗装	内野：人工芝 外野：人工芝
ファウルポール	高さ 6.0～17.0m 径＝75～140 mm
バックネット	高さ 10.0～15.0m 幅＝25.0～35.0m
ダッグアウト	高さ＝2.2～2.5m 長さ＝10.0～15.0m 奥行＝2.5～3.0m
外野フェンス	衝撃を吸収する構造
ブルペン	両翼に 2～3 人用を各 1 箇所
スコアボード	幅 20.0～25.0m 高さ 5.0～7.0m、電動式、連絡設備他一式
バックスクリーン	幅 20.0m 高さ 8.6m
防球ネット	安全確保が可能な設置範囲や高さを検討
グラウンドの給水施設	埋設式や移動式スプリンクラーが望ましい
排水施設	表面排水と暗渠排水を設置 グラウンドの外周にU型側溝を配置

※本野球場は住宅街や鳥屋野潟近隣に位置しており、周辺環境への影響等が懸念されること、また、市内に照明設備を備えた硬式野球の公式戦が開催できる野球場があることから、照明設備は設置しない方針。

出典：日本プロフェッショナル野球組織・全日本野球協会「公認野球規則」(株)ベースボール・マガジン社、(財)日本スポーツ施設協会屋外施設部会「屋外スポーツの建設指針」体育施設出版

表 2.5.2 基本的な機能の概要その2（規則等の規定がないもの）

項目	概要
観客席	3,000 人程度
スタンド屋根	あり（内野スタンド一部）
屋内練習場	あり
更衣室	先進事例は、1・3 塁側に各 2 部屋配置していることを参考に検討
運営しやすい諸室配置	大会運営に必要な諸室を検討
快適な空調機能	諸室が決まり次第、検討
駐車場	650 台（交通公園と共用）＋臨時駐車場として可能な範囲で確保

2.6. 野球場の利用想定

本野球場の利用想定について、野球としての利用に加え、野球以外や災害時の3つの利用シーンに分けて整理します。

表 2.6.1 利活用イメージその1

導入機能		野球利用時	野球以外の利用時 (日常時)	災害時等 (非常時)
野球 場	グラウンド	○硬式野球の公式戦の開催 ○野球クラブ等の練習	○他競技の練習スペース ○市民が利用できる広場 ○キャッチボールスペース ○学校行事やイベントの開催 (運動会等)	○一時避難 場所 (地震・火災)
	スコアボード	○硬式野球の公式戦の得点の 掲示  図 スコアボード事例その1 (出典：パナソニック EW エンジニアリング(株))	○イベントでの活用(利用案内、パブリックビューイング等)  図 スコアボード事例その2 (出典：パナソニック EW エンジニアリング(株))	○施設利用 の案内を 表示 (図 スコア ボード事例 その2 参照)
観客席	内 野 席	○屋根付きの観客席  図 愛宕スポーツコンプレックス 野球場 (出典：太陽工業(株))	○ランニングコース (スタンド下部) ○学校行事やイベント時の飲食 スペース  図 ランニングコース事例 (出典：きたぎんボールパーク HP)	○一時避難 場所 (地震・火災)
	外 野 席	○家族層向けの観客席  図 外野席利活用事例 (出典：楽天モバイル最強パーク宮城 HP)	○学校行事やイベント時の飲食 スペース (マス席風) ○BBQ 等のレンタルスペース (区画ごとにレンタル)  図 外野席利活用イメージ (出典：広島東洋カープ HP)	

表 2.6.2 利活用イメージその2

導入機能		野球利用時	野球以外の利用時 (日常時)	災害時等 (非常時)
野球 場	屋内練習室、 会議室、ダッ グアウト、 諸室 等	○大会選手のウォーミング アップ(投球練習、素振等) ○野球クラブ等の練習 ○大会関係者の控室  図 茨城トヨペット硬式野球部 (ブルペン・屋内練習場) (出典：太陽工業(株))	○他競技の練習 ○地域住民等の会議  図 会議室事例 (出典：くら寿司スタジアム堺 HP)	○一時避難 場所 (地震・火災) (要配慮者 を優先)
	駐車場	○施設利用者の駐車スペース (大会時は近隣公共施設の 駐車場を併用) ○キッチンカー出店スペース	○施設利用者の駐車スペース ○近隣公共施設がイベント開 催時は駐車場を提供 ○キッチンカー出店スペース	○一時避難 場所 (地震・火災)
	芝生広場	○大会選手のウォーミングア ップスペース(ストレッチ 等) ○大会関係者のミーティング スペース ○キッチンカー出店スペース	○市民が利用できる広場 ○キャッチボールスペース ○キッチンカー出店スペース	○一時避難 場所 (地震・火災)
今後 検討が 必要な 機能	遊びス ペー ス	○小学生以下を対象とした遊 びスペース	○小学生以下を対象とした遊 びスペース	—
	ランニン グ コース	○大会選手のアップスペース (ランニング等)	○市民が利用できる周遊コー ス  図 ランニングコース事例 (出典：きたぎんボールパーク HP)	○一時避難 場所 (地震・火災)

2.7. 新野球場の整備イメージ



図 2.7.1 整備イメージ図

※本図は参考イメージです。

第3章 今後の進め方

3.1. 今後の検討事項

3.1.1. 周辺環境整備

本野球場の建て替えに伴い、周辺環境の整備や周辺施設との連携等における検討項目を以下に示します。

【検討事項】

①十分な駐車スペースの確保

- 本野球場は 650 台分の駐車スペースを確保している
- 3,000 人が自動車で来場する場合、1 台 3 人とするとき、1,000 台分の駐車スペースが必要であり、現況では 350 台分不足している
- 駐車場不足が懸念されるため、周辺公共公益施設への影響に配慮し、本公園内で十分な駐車スペースの確保が必要
- 大会終了時は大規模な渋滞が懸念されるため、退出時の動線計画について検討が必要

②バックヤードと管理用出入口の整備

- 効率的に管理・運営を行うため、利用の低い土地を活用し、敷地内に直接入れる管理用出入口の配置を検討する
- 管理用出入口の付近にバックヤードの配置を検討する
- スコアボードとナイター照明の背面は、管理用車両が通過可能な幅員を確保する

③樹木の利活用

- 既存の樹林(ケヤキ等)が園路に支障がないか検討する
- 既存の樹林が投球による事故を防ぐ効果があるか検討する
- 緑陰が期待できる樹木や樹形が整った樹種を検討する
- 防風、防災性能が高い樹木を検討する

④周辺商業施設や公共施設との連携

- 本野球場は商業系民間施設や公共施設と近接している
- 本公園周辺の魅力度向上のため、周辺商業系民間施設との連携について検討する
(例. 本野球場利用時に周辺商業系民間施設で利用可能なクーポンの配布等)
- 大規模イベント時のスケジュール調整や駐車場共用等の連携について検討する

3.1.2. 渋滞対策

本野球場の再整備に伴う駐車場並びに周辺道路における渋滞対策について、以下の前提条件に基づいた検討項目を次頁に示します。

【検討にあたっての前提条件】

- 大会等のイベント利用により同時時間帯に利用が集中するケースを想定
- 再整備後の鳥屋野運動公園野球場の観客収容人数は約 3,000 人程度を想定
- 駐車場への駐車可能台数は約 1,000 台（常設 650 台・臨時 350 台）を想定
- 駐車場入口は 1 カ所、駐車場出口は 2 カ所（図 3.1.1 参照）
- 路線バス及び送迎者用の乗降スペース・駐輪場の設置（図 3.1.1 参照）
- 周辺道路（紫鳥線）では、休日に混雑が発生

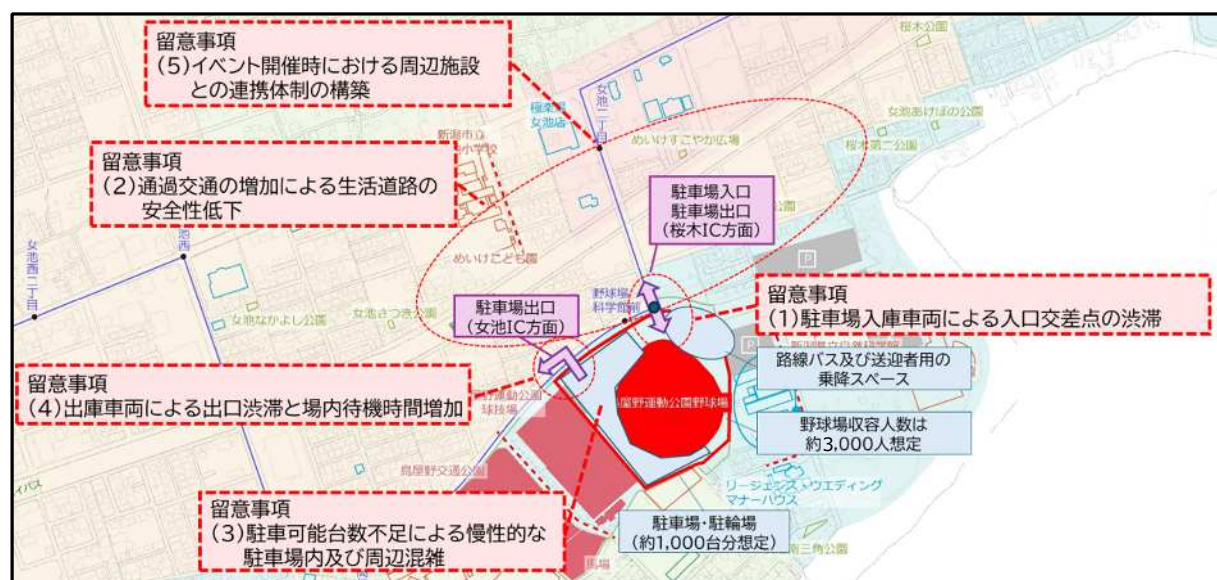


図 3.1.1 駐車場並びに周辺道路における渋滞対策時の検討項目

【検討事項】

①駐車場入口交差点での渋滞リスク

- 駐車場入口が交差点にあり、信号制御で進入台数が制約される
- 入庫車両が集中すると交差点を起点に渋滞が発生する可能性がある
- ＜対策＞：交差点容量計算で渋滞長を検証し、必要に応じて入口増設などを検討する

②迂回車両による生活道路への影響

- 渋滞時、迂回車両が生活道路へ流入し、通過交通量が増加
- 生活道路の安全性低下が懸念される
- ＜対策＞：ルート案内強化、並行道路の整備などアクセス機能向上を検討する

③駐車可能台数不足による混雑

- 施設収容人数約 3,000 人に対応した駐車場を確保する
- 周辺施設との共用利用やイベント時に利用集中が予想される
- 路線バスは休日 2 本/時間程度で輸送力に課題がある
- ＜対策＞：送迎バス乗降場や一般車の乗降専用スペース設置、駐輪場整備等を検討する

④出庫集中による出口渋滞

- 出口は交差点部と球技場側の 2 箇所を想定している
- 信号制御依存で待機時間増加の恐れが想定される
- ＜対策＞：出庫方向を分散（女池 IC 方面→球技場側、桜木 IC 方面→交差点部）、右折禁止措置（ラバーポール設置）等を検討する

⑤イベント時の周辺施設との連携

- 周辺に公共施設が隣接し、イベント重複で交通混雑の悪化が想定される
- ＜対策＞：スケジュール調整、案内・警備強化、駐車場共同利用等、協力体制構築を検討する

3.2. 今後のスケジュール（予定）

本野球場の再整備にあたっては、PPP／PFI手法の優先的検討を行い適正があることが認められたため、今後は、PPP／PFI手法といった民間活力の導入可能性について調査を実施します。

導入の可能性が見込める場合は、PPP／PFI手法により整備を進めます。

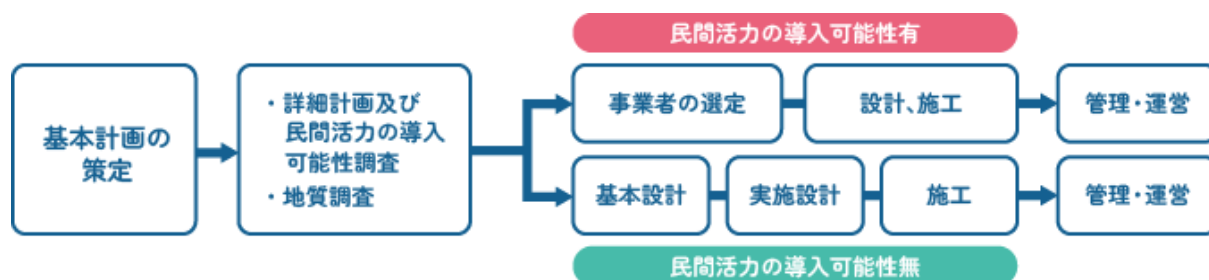


図 3.2.1 今後のスケジュール